

本校は 3 年連続入賞

最優秀賞 1 点、優秀賞 2 点、佳作 1 点と本校が上位に多数入選

### ★受賞一覧

【地域民話研究 個人部門】 最優秀賞（部門 1 位）

坂東壮一郎（2 年生） 「川との死闘～与三と人柱観音像にこめられた思い～」

【地域文化研究 個人部門】 優秀賞（今年是最優秀賞該当なし、事実上部門 1 位）

飯田真世（2 年生） 「漬物は語る～世界に誇る日本食の起源とは～」

【地域文化研究 団体部門】 優秀賞（今年是最優秀賞該当なし、事実上部門 1 位）

杏和高校郷土研究チーム：代表 澤井翔太（2 年生） など 19 名

「今年も祖父江の虫送りを追って～杏和高校 4 年目の参加～」

【地域民話研究 個人部門】 佳作（部門 4 位）

菟島千東（2 年生） 「愛知県弥富市 おみよしの松」



左から澤井さん・菟島さん・坂東さん・飯田さん

### ★表彰式当日の様子 12月3日(日) 國學院大学にて



表彰される飯田さん



プレゼンをする坂東さん



出席者全員で記念撮影

國學院大学は柳田国男・折口信夫らが教鞭をとった日本における民俗学研究における中心的な役割を果たしている大学です。高校生に民俗学、伝承文化を学ぶきっかけ作りとして國學院大学が毎年行っているこのコンテストには、今年も全国から 700 を超える論文が集まりました。

その中で本校は 3 年連続で入賞を果たすことができました。連続入賞だけでなく、初めて複数の作品を提出したところ、全作品入賞、それも上位多数入賞することができました。

12 月 3 日（日）國學院大学キャンパスで行われる表彰式に 4 名が参加しました。また、地域民話研究個人部門で最優秀賞を受賞した坂東壮一郎（2 年生）君が研究内容をプレゼンテーションしました。

個人部門で受賞した 3 作品に共通するのは、自分の地元の伝説もしくは伝統行事を、文献だけでなく、自分の足を使い実地調査し、聞き取りをおこないその歴史的な意味を明らかにしたことです。ほとんどが夏休み 40 日を使い切った大作です。

団体部門の「今年も祖父江の虫送りを追って～杏和高校 4 年目の参加～」は、過年度に卒業生が参加し論文を書き受賞した研究を引き継いだもので、県指定無形民俗文化財である「祖父江の虫送り」に 19 人が参加し調査したものです。

## ★研究内容

### 坂東壮一郎 「川との死闘～与三と人柱観音像にこめられた思い～」



一宮市（旧尾西）で400年前小信川をせき止めるために人柱になったと伝えられている「与三」の話を研究したもの。多くの話を集め・分析し、その伝説が今に生きる人柱観音像と供養祭を調査した。与三の菩提寺である信行寺住職や地元の起連区総代や尾西民俗歴史資料館学芸員からも聞き取りを行い伝説の歴史的意義を明らかにした。

### 飯田真世 「漬物は語る～世界に誇る日本食の起源とは～」



日本で唯一漬物の神様を祀るあま市の萱津神社の「香の物祭」に関する研究である。実際に祭りに参加するだけでなく、宮司、あま市のガイドから聞き取りを行った。香の物の民話研究から始まり、祭りそのもの中止・復活の歴史を調べ、祭りの持つ現代的意味を明らかにした。

### 杏和高校郷土研究チーム：澤井翔太ら19名「今年も祖父江の虫送りを追って～杏和高校4年目の参加～」



県指定無形民俗文化財である「祖父江の虫送り」に19人が参加した。伝統行事の担い手の一部として行事に参加した。虫送り当日の詳細な様子をレポートするとともに、近隣の一宮市で行われている「虫祭」を2か所調査した。また、杏和高校生の通学圏内の市史・町史・村史で、尾張地域でかつて行われていた虫送りを文献調査した。これらと比較することで、「祖父江の虫送り」の意味を再確認した。

### 蓑島千東 「愛知県弥富市 おみよしの松」



自宅近くにあり、母校の中学の校歌にも歌われている「おみよしの松」の昔話の調査。洪水と戦ってきた歴史と昔話の関係。地元と津島神社の天王信仰のとの関係を調べた。